MUSEUM OF ETHNOLOGY ART CHUBU UNIVERSITY

News Letter 中部大学民族資料博物館

vol. 12
May 2017

新館長より ごあいさつ

今春、中部大学に新たに着任された館長より、一言ご挨拶申し上げます。自然豊かな本学の春日井キャンパスにて、新緑の美しさに目を向けながら、これからの大学環境について思いを馳せられているようです。

荒屋鋪　透
あらやしき・とおる
中部大学民族資料博物館 館長
中部大学人文学部教授

本年2017年4月から中部大学民族資料博物館の館長になりました、荒屋鋪透（あらやしき・とおる）と申します。どうぞ、よろしくお願いいたします。

今日は自己紹介として、私がいままで勉強してきたこと、これから研究してみたいことなどを書きたいと思います。これらは私の個人的な関心、興味の対象ですので、民族資料博物館のテーマと重なるところ、そうでない部分があります。しかし研究姿勢という観点では、博物館の考え方と同じだと思います。

高校生の時、クラブ活動で美術部に入ったことは私が芸術全般に強い関心を抱くきっかけとなりました。学校や画廊で自分の作品を発表すること、また友人から教わることが大きかったと思います。テレビでレオナルド・ダ・ヴィンチの生涯を見て感動し、東京上野の国立西洋美術館に行って、研究員の方からレオナルドについてお話を聞くことが出来ました。そして高校生の私に、専門の学会誌『美術史』に発表した自分の論文を読むよう、教えてくださいました。私が論文を読んだ最初です。大学と大学院では美学美術史を専攻して、西洋美術史とくに19世紀フランス美術を学びました。

研究テーマを広げることが出来たのは、大学院を修了して津市の三重県立美術館に学芸員として就職したことが重要でした。

最初の仕事はフランスに留学した日本の洋画家たちと、フランスの先生との交流をテーマにした企画展覧会でした。三重県の美術館は日本の近代洋画コレクションでも知られていました。この時から私のテーマは日仏美術交流史となりました。明治・大正・昭和の戦前まで、日本の洋画（油彩画）はフランス美術の影響を強く受けています。また同時代のフランスの芸術家たちは、美術だけではなく文学・音楽・演劇など多方面で日本の伝統文化の影響（ジャポニスム）を受けるのです。北斎の版画《神奈川沖浪裏》が作曲家ドビュッシーの交響詩《海》の発想源となり、画家モネは広重の版画《亀戸天神境内》から自分の油彩画、睡蓮の池に太鼓橋を描きます。19世紀から20世紀の西洋文化にとり、日本の伝統文化との接触は大変重要です。21世紀の今日、ますますその重要性が強まっていることは日本を訪れる多くの海外からの旅行者、留学生などからわかります。

いまの私は東西文化交流史に関心があります。中部大学民族資料博物館の常設展示室は2部構成になっており、シルクロード室と地域研究エリアに大きくわかれています。西洋文化の原点である地中海世界と、絹を大切な交易品としていた唐などの時代の中国を結ぶ絹の道は、日本の奈良にある正倉院の宝物にも及び、文化人類学や美術史を学ぶ者を刺戟する永遠のテーマです。また地域研究エリアに展示される中部大学民族資料博物館の重要なコレクションに、アフリカ彫刻などの仮面、アジアやオセアニアなどの楽器、さらに民族衣装などがあります。こうしたコレクションは展示するだけではなく、一部分、体験型の教材資料として、来館者のみなさんが実際に楽器の音を出したり、衣装を試着したり出来る「体験実習室」も用意しています。

そうしたコレクションの総点数は3,860点。年間の入館者は6,110人で、そのうち高校生の方々が3,000人以上います。中部大学民族資料博物館は大学のなかにある文化施設ですが、博物館相当施設として、一般のみなさまに開かれています。ぜひ多くの方々にお越しいただきたいと思っております。

索引（さくいん）

新館長よりごあいさつ　1
中部大学民族資料博物館館長・中部大学人文学部教授　荒屋鋪　透
2016秋季・冬季行事報告
◇期間展示
12月 『アフロ・ユーラシア 内陸乾燥地文明展 黒アフリカ・イスラーム文明から考える』　2
中部高等学術研究所・客員教授　嶋田義仁
◇見学会
11月 CAAC 連続講座授業内グループ見学　2
民族資料博物館　原田千夏子
◇見学会
11月 愛知県高等学校音楽教員研究会内 見学　3
民族資料博物館　原田千夏子
◇トピック
中部大学民族資料博物館企画 特別講座（古典絵画）より　4
2017 上半期（春季夏季）行事案内　4

12月

期間展示

『アフロ・ユーラシア　内陸乾燥地文明展 黒アフリカ・イスラーム文明から考える』

‖ 期間 ‖ 2016年12月5日（月）～2017年3月8日（水）
‖ 会場 ‖ 民族資料博物館　常設展示室（部分）
‖ 主催 ‖ 民族資料博物館
‖ 企画 ‖ 嶋田義仁（中部高等学術研究所・客員教授）

入館者：767名

多数の研究分担者とともに、8年間アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明研究に取り組んできた。科学研究費補助金(S)(2009－2013)、同(A)2014－2016)がその支えであった。

その出発点は、サハラ砂漠の南に接した西アフリカのサーヘ・スーダンとよばれる乾燥草原地帯における文化の研究であった。この地域の文化的特徴は、サハラ砂漠横断のサハラ交易によって、10世紀ころから、イスラーム商業経済がはじまり、11世紀からはイスラーム王国やイスラーム交易都市が成立するという文明展開がみられたことだ（拙著『黒アフリカ・イスラーム文明論』創成社）。

なにゆえに黒アフリカの不毛そうな乾燥地域に、文明が成立しえたのか。

その理由は、牧畜文化の文明形成力だった。なぜなら、大型家畜は、近代以前におけるすぐれた移動・運搬手段であり、軍事・政治手段でもあった。それゆえ牧畜文化が分布する乾燥地域に文明が形成されやすかった。

アフロ・ユーラシア大陸中央部にはその乾燥地域が、サハラ砂漠から、中東、中央アジア、西域、モンゴルへと、広大な範囲にわたってひろがる。初期中期の人類文明史は、このアフロ・ユーラシア内陸乾燥地域を舞台に繰り広げられたのではないのか。アジア・モンスーン文化とヨーロッパの西岸海洋性文化はアフロ・ユーラシアの2大森林文化であるが、それは大陸の辺縁部に位置し、その文明化は先進乾燥地文明の刺激で成し遂げられたのではないだろうか（拙著『砂漠と文明』岩波書店）。

こうした問題意識のもと、アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明中心に人類文明史を再構築しようという共同研究をこの8年続けてきた。この共同研究はさらに4年間継続可能になった。アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明研究は12年間におよぶ。それは、わが国人文社会科学研究分野近年の最大プロジェクトだと言ってもよい。その成果の一端を本展でしめすことができたのは、幸いであった。（嶋田）

11月

見学会

CAAC 連続講座授業内グループ見学

‖ 日時 ‖ 2016年11月11日（金）
‖ 場所 ‖ シルクロード室、図書館セミナールーム

参加者：19名

古典絵画の彩色の色見本
（顔料実物）を用いた説明

本学の地域連携シニア大学(CAAC)のカリキュラムの一つ、連続講座「旅と文学」の授業において、古典文学の「源氏物語」を教材に取り上げられることから、博物館で以前に紹介した大学資料《源氏物語絵巻　柏木（三）》（徳川美術館本）の模写作品についての解説依頼があり対応した。

この模写作品は、本学と愛知県立芸術大学の日本画専攻との共同研究成果の一作で、愛知県立芸術大学の文化財保存活動における、模写を専門に研究制作する模写班スタッフによって制作されたもので、古典絵画の伝統的な技法と現代の画家の創意工夫が込められた完成度の高い作品である。

平安時代後期に確立されていった当時の絵画材料により近づけた技術を駆使し、天然の顔料や染料の彩色表現を忠実に再現する貴重な資料といえる。ふだんは常設していないために、

今回の授業見学では特別公開として披露した。

当館では「シルクロード」と「素材研究」を学習テーマに提案して活動する中で、シルクロードを経由して日本に伝播した絵画技法が、千年にわたって現在の日本画として継承されている経過を、天然顔料や染料の表現効果の美しさを紹介する企画催事を行ってきている。

今回の見学では、これまでに博物館で制作した関連の視覚教材と、県立芸術大学との共同研究成果作品のその他の２点、《扇面古写経絵図（模写）》と《平治物語絵巻（模写）》も公開した。

現物作品に近い状態を間近で鑑賞できることで、模写とはいえ、天然顔料のもつ美しい色合いをもとに発展してきた日本の色彩の独特の美を体験することができる。

参加者の多くが（博物館既設の）ルーペを手に、古典絵画の筆線や彩色を見て驚きの声をあげていた。こうした大学博物館における試みが、日常で馴染みの少なくなった伝統文化の再考の契機となり、若い大学生からシニア世代まで年齢を問うことなく、再発見しつつ学び続ける生涯学習の場を提案していきたい。

見学の後半には、場所を移し、日本において国風文化が確立していった時代様式の概要と、その一つである平安絵画をとりまく当時の社会背景や時代的特徴と美意識の発達との関係性について解説を加えた。

さらに、日本美術の保存と普及に尽力し、文化財保存のために海外との協力支援活動に貢献した芸術家や研究者の活動についても触れ、当館のシルクロード室に常設している絵画作品もその一端である点を触れた。

（原田）

大学蔵の模写作品を鑑賞

時代背景の解説

11月

見学会

愛知県高等学校音楽教員研究会内 見学

‖ 日時 ‖ 2016年11月30日（水）
‖ 場所 ‖ シルクロード室、図書館セミナールーム

参加者：30名

愛知県内の高校における音楽担当教員の研究会のなかで、当館の展示室における見学が行われた。はじめに、中国琵琶奏者で国際学科の宗婷婷講師が中国の古楽器の音色が身体に与えるさまざまな影響について講義し、博物館では民族楽器に関する収蔵資料の展示情報と概要を資料にして配布した。

後半は、博物館内に研究会用に特設した民族楽器の展示コーナーを主体として見学の時間となった。自然素材を用いた各国の楽器、例えば、動物の骨でできたペルーの縦笛、水牛の角でできたホルンのような中南米の角笛、ひょうたんを共鳴具にしたアフリカの木琴、かんぴょうの実を用いた中央アジアの弦楽器など、珍しい形態や素材からなるそれぞれの楽器の構造に対する関心がより高いようだった。一部の展示資料は手に触れることができるようにケースから出して陳列したため、手のひらや指先で独特の感触を感じ取ることができる点は当館ならではの鑑賞手段としている。

見学の最後には、宗婷婷講師が中国琵琶を実演し、民族楽器の繊細で叙情豊かな音色を披露した。

（原田）

民族楽器のコーナー展示

宋 講師による中国古楽器の解説

中部大学民族資料博物館企画 特別講座（古典絵画）より

当館における一般対象の実技講座「特別講座(古典絵画)」は、おかげさまをもちまして開館とともに毎年開講を続けています。この経過のなかで、講座受講生で外部機関の公募展に出品し受賞された方からお知らせを随時受けてきました。ここに記し報告させていただきます。

（※順不同）

加 藤 あずさ さん
《ひまわり》
平成 26 年度
『春日井市美術協会展』
日本画部門　市長賞受賞

小笠原　孝 さん
《ひまわり》
平成 27 年度
『第 64 回 春日井市民美術展覧展』
財団理事長賞受賞

小 島 亜弥子 さん
《道》
平成 28 年度
『第 35 回 可児市美術展』
日本画部門　市美術展賞受賞

作品制作を通じた向き合い方は人それぞれと思いますが、本講座を通じて実技の魅力を感じ取られた意識の高まりを再認識することができる機会として、当館としましても生涯学習への取り組みをよりよいものに発展していくための励みとさせていただきます（H）。

2017 上半期(春季夏季)行事案内

MUSEUM OF ETHNOLOGY ART CHUBU UNIVERSITY

◇成果発表展示

「平成28年度　特別講座受講生作品発表展示」

会期：5 月 9 日（火）～ 5 月 23 日（火）
主催：中部大学民族資料博物館
　　最終日に指導講師による講評会を行います。

◇企画展示

「樹幹 ―人と自然の共生」

会期：6 月 1 日（木）～ 8 月 11 日（金）
主催：中部大学民族資料博物館
　　初日に制作者と美術評論家によるギャラリートークを行います。